

すててしまう葉っぱから堆肥をつくろう！

■プログラムの概要

ねらい	調理で捨ててしまう野菜くずやなどから肥料が作れることを知り、実際に堆肥作りをする。		
キーワード	ごみ・資源		
対象	幼児～小学2年		
時間	50～60分	実施場所	ベランダなど汚れてもいい場所（ブルーシートを敷く）
使用するもの	給食の残渣（繊維の少ない、分解しやすい物）、米ぬか、使い古した土、たらい、紙パック（1リットルのもの）、キリ（千枚通し）、かご		
全体の流れ	1. あいさつ・今日の流れの説明 2. 植物に必要なものの話 3. 堆肥づくり 4. 微生物の働き 5. まとめ 毎日シェイクすることを約束する（1ヶ月）		

■進め方

時間	内容	指導上の留意点
5分	<導入> ごみについての関心度を聞く。	• 食べ残しをしていないか、残ったゴミはどうなるか問いかける。
40分	<植物に必要なもの> 植物には太陽と水と肥料が必要なことを説明する。 • その肥料をいつも食べている給食の残渣から作れることを知らせる。 • 子どもたちが育てている野菜から葉っぱクイズ <堆肥づくり> • 子どもたちで小さくちぎれる程度の量の葉を用意し、前日に子どもたちと一緒にさみや包丁で生ごみを切っておく。 • 数人ずつタライの周りに座らせ、切った生ごみを米ぬかであえてもらう。 • あえたものを紙パックに土とサンドして入れ、シェイクしてよく混ぜる。 • できた堆肥は緑のカーテンや植物などに与える。 <微生物の働きについて> 微生物が野菜くずを分解して肥料にしてくれる • 毎日空気を入れるといい微生物が働いていい堆肥になる。 • 毎日シェイクすることを約束する。	• 紙パックの底に通気性を良くする穴をキリでたくさん開けておく。 • 材料は、細かい方が微生物に食べられやすい。 • 紙パックに入れるのも一掴みずつ子どもにやってもらう。
5分	<まとめ> • 置く場所は、風通しがよく雨の当たらないところ。 • 下に<u>苗用のかご</u>などを置き、通気性を良くする。 • 毎日よく振り、1ヶ月ぐらい経ったら土に混ぜて、花や野菜を育てられるので、緑のカーテンに追肥する。	• シェイクするときは紙パックの口をつまんで行う。 • 虫がつかないように新聞紙をかぶせる。
	<終了>	

■使用するもの

物品名	数量	備考
1リットルの紙パック	1人1個	キリや千枚通しで底に穴を開けておく
新聞紙	1人各1枚	中に入れる物とかぶせる物
米ぬか	1人半つかみ	
給食の調理残渣	1人1つかみ	
パソコン、プロジェクター、スクリーン	各1台	用意が困難な場合はパワーポイント資料を印刷し、紙芝居する。
使い古した土	1人紙パック半分	

■実施あたって留意する点

- ・堆肥は1カ月ほどで利用できるが、気温によって多少異なる。（微生物の働きによる。）
- ・途中で白いカビ（無害）が発生することがある。